



いなほ

稲積神社社報

第35号

平成23年5月3日発行



東北関東大震災に被災された方々に心より御見舞申し上げます。

正ノ木例大祭式次第

- 定刻 手水の儀 参進
- 次 修祓の儀
- 次 宮司一拝
- 次 宮司御扉を開く
- 次 禰宜以下神饌を供す
- 次 宮司祝詞を奏す
- 次 献歌
- 次 玉串拝礼
- 次 撤饌
- 次 宮司遷御の祝詞を奏す
- 次 遷御
- 次 宮司一拝
- 次 宮司一拝
- 次 発御

平成三十三年度正ノ木例大祭神賑行事(予定)

- 五月二日(月)
 - 献木祭 午前十時
 - 甲府商工会議所(境内)
 - 前夜祭 午後五時(社殿)
 - 三日(火)
 - 大祭 午前十時
 - 御輿渡御 午前十一時〜午後四時
 - 奉納相撲 午前十一時〜
 - バザー 午後十二時〜
 - 四日(水)
 - 二ノ祭 午前九時
 - 五日(木)
 - 三ノ祭 午前九時
 - 成就祭 午後五時



遷宮で結ぶ人の輪心の輪
第六十二回神宮式年遷宮



災害に思う

宮司 根津泰昇

今年の冬は、日本海側を襲った大雪であり、又三月十一日に発生した東北地方太平洋沖地震と度重なる災害に見舞われた。今日日本は非常事態である。

大雪に見舞われた際、日本人の美しい心が報道された。

大雪に遭遇し大渋滞に巻き込まれている人々に、沿道の住民が、「トイレ貸します」の看板を掲げる家、和菓子屋さんが千個の和菓子を提供、炊き出しをする人々、元旦には、御節料理を振る舞う家等々の、心暖まる報道に接し、日本人に「礼節」の心が失われていない事に安堵を感じた。

大震災に見舞われた地方に対し救援、支援の輪が全国に広がり、一日も早い復興を願う国民の姿があった。特に福島第一原発作業に携

わる東電職員、警察、消防、自衛隊、三重県からは、「キリン」と呼ばれる放水車を操る、一般国民、共に被曝の危険性がある事を覚悟し、復旧作業に従事している作業員の中には五日間で年間被曝線量の五十分分を浴びた人もいるという。復興への心意気は、正に特攻隊と重なって見えた。その気持ちを思う時に、敬服の念で涙腺が緩んだ。

福島、茨城、栃木、群馬で栽培されているホウレンソウ、カキナから放射性ヨウ素が検出され出荷停止の指示が出された。健康には害がないと報道されたが、この措置は受け止めなければならぬであろう。

しかし放射性ヨウ素が検出されない品々についても、売れない、買わない事態になった。ピーマンはK二千円の価格が四百円、六百円にまで下落した。風評に感わされない

行動を求めたい。天皇、皇后両陛下は避難所を訪問された。「お大事にね」「少し休めましたか」とお言葉をかけられ、被害状況に心を痛められました。

お住まいの皇居、御所では、「国民と国難を分かち合いたい」として「自主停電」などに取り組みを行われています。両陛下が大震災に如何に心をお痛みになられておられますことが痛感してまいります。

本年の正の木祭は、自粛すべきところは自粛し齋行致します。正の木祭は江戸時代からの神事で日本文化の農耕民族の礎となる祭事でありました。今回の未曾有の被災に遭われた地方の方々に勇氣と希望を届け、未来を担う子供達に夢を与えたく、例大祭と災害復興祈願祭の例祭として齋行致します。

今こそ日本国民の心を一つにして、力を合わせる時であります。

がんばれ 日本

がんばるぞ ニッポン

祭典行事歴

(五月〜十二月)

- 毎月 一日 月始祭
- 三日 月次祭
- 十五日 神恩感謝祭
- 古神礼
- 焚上げ祭
- 五月二日 正ノ木大祭前夜祭
- 三日 正ノ木例大祭
- 四日 二之祭
- 五日 三之祭
- 六月五日 正ノ木大祭成就祭
- 御田植祭
- 三十日 夏越大祓・万灯祭
- 七月十五日 瘡子社例祭
- 八月 富士ヶ嶺開拓祭
- 九月十一日 崇敬会大祭
- 十月十日 金刀比羅神社例祭
- 拔穂祭
- 十月十日 十四日〜十五日 甲府伊勢講千社詣の旅
- 真田十万石史跡探求と川越まつりをめぐる草津温泉
- 一泊二日の旅
- 十一月二十三日 新嘗祭
- 十二月四日 境内清掃奉仕
- 三十一日 年越大祓

神社にお参り

毎月一日、三日、十五日には

しましよ!!



二尺二寸

胴長太鼓台付 一鼓

神職狩衣

夏用 五領

冬用 五領



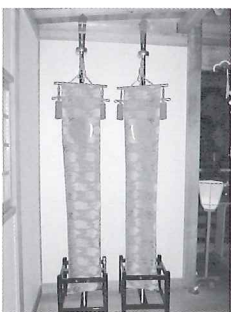
日月簾 一對

小尾家長男 武久様結婚記念

株式会社 菱和園

代表取締役

小尾 武殿



国歌「君が代」

君が代は 千代に八千代に
さざれ石の 叢となりて 苔のむすまで

「君が代」の歌詞の原歌は、今から一〇〇年ほど前に編まれた『古今和歌集』に見られ、それがやがて今日の形となり、全国に広まって多くのの人々に親しまれてきました。

この和歌は、尊敬する「君」の長寿を心から祈るもの、思いやりや謙虚さを大切にしてきた日本人の生き方をよく表しています。

国歌「君が代」の「君」は、日本国の象徴である天皇陛下の

年中行事を楽しむ(九月〜十二月)

秋の行事を楽しもう！

重陽の節供 九月九日

九月九日「重陽の節供」は縁起の良い陽数(奇数)の最大値である九が重なることからこの名がつけましたが、「菊の節供」「重九の節供」とも呼ばれます。

奈良・平安時代の宮中では詩歌の宴を催すなど文化的行事も盛んでしたが、今日でも菊の花を鑑賞する行事が全国各地の神社などで催されています。

十五夜 九月中旬〜一〇月初旬頃

もともとは旧暦の八月十五日の夜、現在の暦では九月中旬から十月下旬頃の満月の日を「十五夜」といい、この夜の月を「中秋の名月」と呼びます。

また本来は収穫の美りに感謝する意味があるため、とれたての里芋をお供えすることから「芋名月」とも呼ばれます。月見団子やすすきなどを供え、名月を鑑賞する行事はいまも中秋の観月祭として神社にも伝わっています。

◆十五夜のマメ知識◆

旧暦の九月十三日(新暦十月末頃の月を「十三夜」といい、十五夜と同じように美しい月が楽しめます。また、豆や栗を供えることから「豆名月」「栗名月」とも呼ばれます。

秋分の日 九月二十三日頃

春のお彼岸「春分の日」に対して、秋のお彼岸は九月二十三日頃の「秋分の日」を中日とした前後三日間をいいます。

「暑さ寒さも彼岸まで」というように、この日を境に秋へと移り変っていくのです。この間にお墓参りをし祖先をおまつりします。なお、宮中では「秋季皇霊祭」が行われます。

◆秋分の日マメ知識◆

秋分の日には真っ赤な彼岸花(曼珠沙華)が田畑の畦道や墓地の周辺などに咲き誇ります。この花は天上に咲く花といわれ、摘んだりせずに鮮やかな色合いを楽しむものです。

冬の行事を楽しもう！

冬至 十二月二十二日頃

冬が最も短く、夜が最も長い日を冬至といい、年によって日の出がずれますが毎年十二月の二十二日頃になります。現在の太陽暦の正月が定着するまでは、冬至を過ぎると日足が日毎に伸びていくことから、太陽の運行の出発点、太陽の再生と捉えられ、暦の起点とされてきました。

◆冬至のマメ知識◆

冬至にはかぼちゃやこんにやくを食べたり、ゆず湯に入ったりして無病息災を祈ります。これはかぼちゃやゆずが栄養学的にもビタミンが豊富であることから、風邪の予防になると考えられているからです。

大晦日 十二月三十一日

一年の最後の日、十二月三十一日の大晦日の夜を「除夜」ともいいます。年神様を迎えるために夜通し起きていたことからこう呼ばれています。

大晦日に至までの年末には「すす払い」や「餅つき」などの様々な行事があり、お正月の準備が忙しくなります。十二月十三日がすす払いの日で、この日が正月準備の開始日。現在では神棚や仏壇のみを清める日となっており、大掃除はさらに年末が迫ってから行う家が多いようです。

◆大晦日のマメ知識◆

大晦日の夜食に食べる年越そばは、普段の月末も忙しくて夜遅くにそばを食べたことから、月末の「晦日そば」由来するものだとされています。また、細く長いそばを食べ、長寿を祈るという意味も込められています。

お月見のお供え

月の見える場所に小机を置き、秋の七草(すすき・ききょう・萩・くず・なでしこ・藤ばかり・おみなえし)と月見団子、お神酒、季節の初物(栗、里芋など)を供えます。七草がなければすすきだけでも十分です。



稲積神社甲府伊勢講第46回千社詣での集い

真田十萬石史跡探求と川越まつりをめぐる
草津温泉1泊2日の旅

- ◆旅行予定期日：平成23年10月14日(金)～15日(土)1泊2日
- ◆旅行代金：29,000円(稲積神社崇敬会員の方28,000円)
- ◆募集人員：160名(最少催行120人員名)
- ◆添乗員：甲府より同行いたします
- ◆申込方法：各世話人さん、稲積神社までお申し付けください
- ◆利用予定ホテル：草津温泉 ホテル櫻井・本客殿(TEL:0279-88-3211)
- ◆見どころ



ホテル櫻井全景(イメージ)



象山神社(イメージ)



真田邸(イメージ)



川越まつり(イメージ)



草津温泉湯畑(イメージ)

境内散歩
○そろばん塚
日本珠算連盟山梨支部と甲府商工会議所が日珠連の珠算能力検定試験第百回を記念して先人の遺徳をしのび将来も珠算教育が発展するようにとの祈願を込めて建立された。
昭和五十六年三月十一日建立

境内散歩
○そろばん塚
日本珠算連盟山梨支部と甲府商工会議所が日珠連の珠算能力検定試験第百回を記念して先人の遺徳をしのび将来も珠算教育が発展するようにとの祈願を込めて建立された。
昭和五十六年三月十一日建立

境内散歩
○そろばん塚
日本珠算連盟山梨支部と甲府商工会議所が日珠連の珠算能力検定試験第百回を記念して先人の遺徳をしのび将来も珠算教育が発展するようにとの祈願を込めて建立された。
昭和五十六年三月十一日建立

崇敬会通信 ②



崇敬神社として
此処に住んで

現在地に菱和園を移転したのは昭和二十五年頃だったと覚えています。その頃は人寄せが少なく、「正ノ木さん」と言えば年中行事の一つとして、曆に書き込み指折り数えて楽しみにしていたものです。

今では出店も少なく、植木等も草花が多くなくなり、木等も昔はハツピを着た職人さんが大勢でジャツキチエーンを櫓に組んで大きな庭木を運び込んでいたものです。庭木以外にも果樹が

稲積神社

命継ぐ食もの衣もの住むいへも
稲荷の神の恵みなりけり

甲府市太田町公園内鎮座
電話 (055) 233-5573
FAX (055) 226-0787

ひしわ園 小尾 武

既に六十年を過ぎた鉢もあり、父と一緒に夜店波を分け植木屋に寄り夜店の水飴を買って身動き取れぬ境内へ進み、神社へお参りする。歳を重ねる毎に盆栽を見ながら稲積神社を崇敬して暮らしてきた事を感慨深く思う様になりました。

編集後記

例年だと各地で春祭を告げる花火が鳴響く時節だが東北関東大震災により甚大な被害を受けた方々に配慮し祭典等の春の行事が自粛されている。正ノ木祭も多くの神賑行事が中止となったがこの祭を機に復興に向け力強く踏み出そう。

御案内 夏越大被式

大祓は六月三十日と十二月三十一日の年二回、半年毎に全国の神社で執り行われ、私たちが知らず知らずのうちに犯した罪汚れを祓い清める神事です。
特に六月の祓は「夏越の祓する人は千歳の命延ぶという」と謳われているようにちの輪をくぐり邪気を祓い暑い夏を元気で過ごせるように願いが込められています。
当神社でも六月三十日午後五時に斎行致しますので是非御家族お揃いで御参拝下さい。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。